

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴科 科目 地理総合

教科： 地歴科 科目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組

教科担当者：（ 1組：木暮 ）

使用教科書：（ 『高等学校 新地理総合』帝国書院 ）

教科 地歴科 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解し、諸資料を活用する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】 日本の文化・歴史だけでなく、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地図や地理情報システムなどを用いて、調査結果や諸資料から情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム ①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類	【知識及び技能】 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	11
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1
	第2章 結び付きを深める現代世界 ①現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ②現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	【知識及び技能】 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	11
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴科 科目 地理総合

教科： 地歴科 科目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組

教科担当者： （ 1組：木暮 ）

使用教科書： （ 『高等学校 新地理総合』帝国書院 ）

教科 地歴科 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解し、諸資料を活用する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】 日本の文化・歴史だけでなく、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地図や地理情報システムなどを用いて、調査結果や諸資料から情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 ①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ②世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活 ・世界の言語・宗教と人々の生活 ・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活	【知識及び技能】 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1
	第2章 地球的課題と国際協力 ①世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ②世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・複雑に絡み合う地球的課題 ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食糧問題 ・都市・居住問題	【知識及び技能】 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴科 科目 地理総合

教科： 地歴科 科目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組

教科担当者： （ 1組：木暮 ）

使用教科書： （ 『高等学校 新地理総合』帝国書院 ）

教科 地歴科 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解し、諸資料を活用する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】 日本の文化・歴史だけでなく、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解し、地図や地理情報システムなどを用いて、調査結果や諸資料から情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 ①我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え	【知識及び技能】 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	15
	第2章 生活圏の調査と地域の展望 ①生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ②生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ③生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	・生活圏の調査と地域の展望	【知識及び技能】 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1 合計 78

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴科 科目 歴史総合

教科： 地歴科 科目： 歴史総合 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組

教科担当者：（ 1組：木暮 ）

使用教科書：（ 『明解 歴史総合』帝国書院 ）

教科 地歴科 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解し、諸資料を活用する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】 日本の文化・歴史だけでなく、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や、意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察する。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界 ①18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り、理解させる。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・アジアのなかの江戸幕府 ・成熟する江戸社会 ・清の繁栄と結び付く東アジア ・アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	【知識及び技能】 18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	5
	2章 欧米諸国における近代化 ①市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解させる。 ②市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について、追究しようとする態度を養う。	・イギリスの革命とアメリカの独立 ・フランス革命 ・フランス革命の影響と国民意識の芽生え ・産業革命で変わる社会 ・イギリスの繁栄と国際分業体制	【知識及び技能】 市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について、追究しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1
	3章 近代化の発展と国民国家形成 ①国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り、理解させる。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・1848年 ・イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 ・アメリカの拡大と第2次産業革命 ・帝国主義と世界の一体化	【知識及び技能】 国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	5
	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 ①欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解させる。 ②「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ・南・東南アジアの植民地化 ・ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ・黒船の来航と日本の対応 ・新体制の模索と江戸幕府の滅亡	【知識及び技能】 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	5
	5章 近代化が進む日本と東アジア ①明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解させる。 ②明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・新政府の誕生 ・近代国家を目指す日本 ・日本と清の近代化と日清戦争 ・列強の中国進出と日露戦争 ・日露戦争が与えた影響	【知識及び技能】 明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴科 科目 歴史総合

教科 地歴科 科目 歴史総合 単位数 2 単位

対象学年組 第 3 学年 1 組

教科担当者 (1組: 木暮)

使用教科書 (『明解 歴史総合』 帝国書院)

教科 地歴科 の目標:

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解し、諸資料を活用する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】 日本の文化・歴史だけでなく、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

科目 歴史総合 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や、意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察する。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	第3部 国際秩序の変化と大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応 ①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解させる。 ②第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ・総力戦となった第一次世界大戦 ・ロシア革命と大戦の終結	【知識及び技能】 国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	6
	2章 国際協調と大衆社会の広がり ①ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解させる。 ②新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・ヴェルサイユ体制の成立 ・東アジアの民族自決の行方 ・中東・インドの民族自決の影響 ・ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 ・大衆社会の出現とアメリカの繁栄 ・日本における大衆社会の形成	【知識及び技能】 ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1
	3章 日本の行方と第二次世界大戦 ①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解させる。 ②ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・世界恐慌が与えた影響 ・ファシズムの台頭と拡大 ・政党政治の断絶と満州事変 ・日中戦争の始まり ・第二次世界大戦の展開 ・戦局の悪化と被害の拡大 ・第二次世界大戦の終結とその惨禍	【知識及び技能】 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	6
	4章 再出発する世界と日本 ①冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解させる。 ②国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・戦後の新たな国際秩序 ・冷戦の始まり ・日本撤退後の東アジア ・日本の改革と独立の回復	【知識及び技能】 冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地歴科 科目 歴史総合

单位数： 2 单位

使用教科書：（『明解 歴史総合』帝国書院）

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 日本の文化・歴史だけでなく、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や、意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察する。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学期	第4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本 ①冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解させる。 ②冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・アメリカ・ソ連の緊張と緩和 ・冷戦下における日本の復興 ・第三勢力の形成と脱植民地化 ・中東戦争とパレスチナ問題	【知識及び技能】 冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	8
	2章 多極化する世界 ①冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解させる。 ②各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現させる。 ③冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・揺らぐアメリカと先進各国の変化 ・「経済大国」日本の模索 ・経済発展に取り組むアジア・南米諸国 ・イスラーム復興と冷戦への影響	【知識及び技能】 冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	8
	3章 グローバル化のなかの世界と日本 ①冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解させる。 ②グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現させる。 ③冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとする態度を養う。	・冷戦の終結と変わる世界構造 ・冷戦の終結が与えた世界への影響 ・超大国アメリカと中東情勢 ・国際環境の変化と日本 ・グローバル化による国際社会の変容	【知識及び技能】 冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査		・これまでの学習内容を理解している。	○	○		1
							合計
							78

年間授業計画

南葛飾 高等学校 令和7年度(3学年用) 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組

教科担当者： (1組： 横山)

使用教科書： (新数学A／新数学A 解答編 (東京書籍))

教科 数学 の目標：
【知識及び技能】 物事を数学的に捉え、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用し、物事を論理的かつ他の事象と関連付けながら統合的・発展的に考察する力を身に付ける。
【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとしたり、問題解決の過程から考察を深めたりすることができる。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 場合の数と確率 - 場合の数 【知識及び技能】 場合の数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	【内容】 ・集合 ・集合の要素の個数 ・個数の数え方 ・和の法則と積の法則 【教材】 ・デジタル板書 ・授業プリント ・一人一台端末の活用	【知識・技能】 集合の要素の個数に関する基本的な関係を理解し、集合の要素の個数を求めることができる。和の法則や積の法則など数え上げの原則について理解し、場合の数を効率よく求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な事象に関する場合の数を樹形図や表に整理して調べることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	B 場合の数と確率 - 場合の数 【知識及び技能】 場合の数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	【内容】 ・順列 ・順列の利用 ・いろいろな順列 ・組合せ ・組合せの利用 【教材】 ・デジタル板書 ・授業プリント ・一人一台端末の活用	【知識・技能】 順列・組合せの意味を理解し、順列の総数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 身近な例に対して積の法則を適用することを通して、順列の総数を求める式を考察することができる。組合せの考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めることができる 【主体的に学習に取り組む態度】 順列・組合せの考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

南葛飾 高等学校 令和7年度(3学年用) 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組

教科担当者： (1組： 横山)

使用教科書： (新数学A／新数学A 解答編 (東京書籍))

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 物事を数学的に捉え、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用し、物事を論理的かつ他の事象と関連付けながら統合的・発展的に考察する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとしたり、問題解決の過程から考察を深めたりすることができる。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	C 場合の数と確率 - 確率 【知識及び技能】 確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	【内容】 ・事象と確率 ・確率の計算 ・排反事象の確率 ・余事象の確率 【教材】 ・デジタル板書 ・授業プリント ・一人一台端末の活用	【知識・技能】 確率について理解し、場合の数をもとに事象の確率を求めることができる。確率の加法定理を理解し、排反事象の確率を求めることができる。余事象の確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 確率の性質に基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 確率の性質を振り返って、事象の起こりやすさを判断しようとしている。				13
	定期考査			○	○		1
	D 場合の数と確率 - 確率 【知識及び技能】 確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	【内容】 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率 ・条件付き確率 ・期待値 【教材】 ・デジタル板書 ・授業プリント ・一人一台端末の活用	【知識・技能】 独立な試行・反復試行・条件付き確率の意味を理解し、その確率の公式を利用して確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 具体的な事象を基に、条件付き確率や確率の乗法定理を考察することができる。期待値を意思決定に利用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 具体的な事象を基に、条件付き確率や確率の乗法定理を考察しようとしている。期待値を意思決定に利用しようとしている。				14
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

南葛飾 高等学校 令和7年度(3学年用) 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組

教科担当者： (1組： 横山)

使用教科書： (新数学A／新数学A 解答編 (東京書籍))

- 教科 数学 の目標：
- 【知識及び技能】 物事を数学的に捉え、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用し、物事を論理的かつ他の事象と関連付けながら統合的・発展的に考察する力を身に付ける。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとしたり、問題解決の過程から考察を深めたりすることができる。

科目 数学A	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに關する技能を身に付けている。	図形の構成要素間の關係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。
【学びに向かう力、人間性等】	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	E 図形の性質 - 平面図形の基礎 - 三角形の性質 【知識及び技能】 図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の關係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	【内容】 ・直線と角 ・三角形の合同と相似 ・三角形と比 ・三角形の重心 ・三角形の外心と内心 ・角の二等分線と線分の比 【教材】 ・デジタル板書 ・授業プリント ・一人一台端末の活用	【知識・技能】 平面図形の基礎を理解し、これらを利用して線分の長さや角の大きさを求めることができる。三角形の性質を理解し、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 【思考・判断・表現】 中点連結定理を利用して、線分を3等分する方法を考察することができる。三角形の内角の二等分線と比の定理を利用して、線分を与えられた比に内分する作図について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中点連結定理を利用して、線分を3等分する方法を考察しようとしている。三角形の内角の二等分線と比の定理を利用して、線分を与えられた比に内分する作図について考察しようとしている。				18
	定期考査			○	○		1
							合計 78

南葛飾 高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教 科： 理科 科 目： 化学基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 組

教科担当者：（ 1 組：磯田 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ 高校化学基礎 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験

【思考力、判断力、表現力等】人間生活と生命の在り方、生命尊重の考えから物事を判断し、解決に向けて思考する。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を育む。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】身近な物質を探究する活動を通して、物質を対象とする学問である化学の特徴について理解する 【思考力、判断力、表現力等】身近な物質について観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現する一連の活動を通して、科学的に探究する方法について理解する 【学びに向かう力、人間性等】観察、実験にあたって、安全性の確保や、適切な実験器具の使用と操作による事故防止の方法を身に付ける。その際、試薬の適切な取り扱い、廃棄物の適切な処理など、環境への影響などにも十分配慮する	序章 化学と人間生活 これから学習する「化学」とは何だろうか 実験を安全に行うために 実験の進め方	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	4
	【知識及び技能】 ・物質の分離や精製などの実験を行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付ける。原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解する。元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する 【学びに向かう力、人間性等】 ・粒子の熱運動と温度の関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解する。	1 章 物質の構成 1 節 物質の探究 2 節 物質の構成粒子	【知識・技能】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などについて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。物質の構成粒子について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などの観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。物質の構成についての観察、実験を行い、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】物質の構成についての観察、実験を行い、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現できる。物質の構成などに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】イオン結合、共有結合、金属結合時の電子のようすと原子の結合について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】イオン性物質、分子性物質、金属の観察、実験とその特性を厘屈と結び付けて考えられる。 【学びに向かう力、人間性等】様々な物質に対し、主体的に観察し、科学的に探究しようとする態度を見につける。	2 章 物質と化学結合 1 節 イオン結合 2 節 金属結合 3 節 共有結合	【知識・技能】イオン結合、共有結合、金属結合時の原子の結合について実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】イオン性物質、分子性物質、金属の観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】様々な物質に対し、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科 理科 科 目： 化学基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 組

教科担当者：（1 組：磯田 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ 高校化学基礎 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験【思考力、判断力、表現力等】人間生活と生命の在り方、生命尊重の考えから物事を判断し、解決に向けて思考する。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を育む。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
2 学 期	【知識及び技能】物質量と化学反応式について理解し、利用する方法を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】物質量と化学反応式についての観察、実験を行い、物質の変化における規則性や関係性を説明できるようにする 【学びに向かう力、人間性等】物質と化学反応式に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける	3 章 物質の変化 1 節 物質量と化学反応式	【知識・技能】物質量と化学反応式について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている 【思考・判断・表現】物質量と化学反応式についての観察、実験を行い、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】物質と化学反応式に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	【知識及び技能】酸と塩基、中和についての理解を深め、測定のための基本技術を身につける 【思考力、判断力、表現力等】酸と塩基、中和についての実験、測定を行い、科学的探究を行う力を身につける 【学びに向かう力、人間性等】酸と塩基、中和に関して、主体的に探求しようとする態度を身につける	3 章 物質の変化 2 節 酸と塩基	【知識・技能】酸と塩基、中和反応を理解し、測定のための基本技術を理解しているか 【思考・判断・表現】酸と塩基、中和についての実験、測定を行って科学的探究がなせるようになったか 【主体的に学習に取り組む態度】酸と塩基、中和に関して、主体的に探求しようとする態度がみについたか	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科 理科 科 目： 化学基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 組

教科担当者：（1 組：磯田 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ 高校化学基礎 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験【思考力、判断力、表現力等】人間生活と生命の在り方、生命尊重の考えから物事を判断し、解決に向けて思考する。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を育む。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	【知識及び技能】物質の酸化と還元に関する理解と探究方法を身につける 【思考力、判断力、表現力等】酸化と還元について、観察実験を行い、探究する力を身につける 【学びに向かう力、人間性等】酸化と還元について、主体的に科学的に探究する態度を身につける	3 章 物質の変化 3 節 酸化還元反応	【知識・技能】物質の酸化と還元の理解とその探究方法を理解しているか 【思考・判断・表現】酸化と還元について、観察実験を行い、探究する力が身についているか 【主体的に学習に取り組む態度】酸化と還元について、主体的に科学的に探究する態度が身についているか	○	○	○	15
	【知識及び技能】日常生活、社会を支えている科学技術について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】科学技術について、観察、探究する力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】科学技術に対して主体的に関わり科学的に考える態度を身につける。	終章 化学が拓く世界	【知識・技能】日常生活、社会を支えている科学技術について理解しているか。 【思考・判断・表現】科学技術について、観察、探究する力がついているか。 【主体的に学習に取り組む態度】科学技術に対して主体的に関わり科学的に考える態度が身についているか。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
							合計
							78

年間授業計画

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科： 外国語 科目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組

教科担当者： (1組：関 岳彦

使用教科書： (Vista English Communication II)

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語を用いて適切に表現したり伝えあったりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 外国の文化に対する理解を深め、英語を用いて主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの基礎的な理解を深め。これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	外国の文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、英語を用いて主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 (ハ ヤ)	話 (ハ カ)					
1 学 期	Lesson 1 【知識及び技能】 want ～ to do・how to doに関する事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 外国文化・テレビについて、本文の内容を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 外国文化・テレビについて、また過去の行動について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して、伝え合う。	・指導事項 want ～ to do・how to do ・教材 教科書本文の内容理解、文法項目の定着を図るために授業プリントを用いる。 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	○	○	○	○	14
	定期考査							○	○		1
	Lesson 2 【知識及び技能】 疑問詞やifで始まる節に関する事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 言語や外国文化について、本文の内容を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 言語・外国文化について、また過去の行動について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して、伝え合う。	・指導事項 疑問詞やifで始まる節 ・教材 教科書本文の内容理解、文法項目の定着を図るために授業プリントを用いる。 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	○	○	○	○	15
	定期考査							○	○		1

南葛飾 高等学校 令和 7 年度（3 学年用） 教科		外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ
教 科：	外国語	科 目：	英語コミュニケーションⅡ	
対象学年組：	第 3 学年 1 組	単位数：	2	単位
教科担当者：	(1組：関 岳彦)			
使用教科書：	(Vista English Communication II)			

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの基礎的な理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	外国の文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、英語を用いて主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 「や 」	話 「発 」	書					
2 学 期	Lesson 3 【知識及び技能】 使役動詞・知覚動詞に関する事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物や自然について、本文の内容を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や自然について、また過去の行動について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して、伝え合う。	・指導事項 使役動詞・知覚動詞 ・教材 教科書本文の内容理解、文法項目の定着を図るために授業プリントを用いる。 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	○	【知識・技能】 使役動詞・知覚動詞について理解している。 【思考・判断・表現】 教科書本文を読み取り、概要や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物や自然について、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。	○	○	○	14
	定期考査								○	○		1
	Lesson 4 【知識及び技能】 形式主語it・形式目的語itに関する事項を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 社会的な話題について、本文の内容を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して、伝え合う。	・指導事項 形式主語it・形式目的語it ・教材 教科書本文の内容理解、文法項目の定着を図るために授業プリントを用いる。 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	○	【知識・技能】 形式主語it・形式目的語itの働きをする節について理解している。 【思考・判断・表現】 教科書本文を読み取り、概要や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。	○	○	○	16
	定期考査									○	○	

南葛飾 高等学校 令和 7 年度（3 学年用） 教科		外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ
教 科：	外国語	科 目：	英語コミュニケーションⅡ	
対象学年組：	第 3 学年 1 組	単位数：	2	単位
教科担当者：	（1組：関 岳彦）			
使用教科書：	（ Vista English Communication II ）			

教科 外国語	の目標：
【知 識 及 び 技 能】	英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、英語を用いて適切に表現したり伝えあったりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	外国の文化に対する理解を深め、英語を用いて主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの基礎的な理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	外国の文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、英語を用いて主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 「 」 や 「 」	話 「 」 発 「 」	書					
3 学 期	Enjoy Reading! Enjoy Communication! 【知識及び技能】 英語の文章の構成や日常会話について、基本的な事柄を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物語や日常の場面について、本文の内容を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 物語や日常の場面について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して、伝え合う。	・指導事項 英語の文章の構成・日常会話 ・教材 教科書本文の内容理解、文法項目の定着を図るために授業プリントを用いる。 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○	○	【知識・技能】 英語の文章の構成・日常会話について基本的な事柄を理解している。 【思考・判断・表現】 教科書本文を読み取り、概要や要点を把握している。 【主体的に学習に取り組む態度】 物語や日常の場面について、基本的な語句や文を用いて、主体的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。	○	○	○	14
	定期考査								○	○		1 合 計 78

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 組～組

教科担当者：（1組：長野泰明）

使用教科書：（新高等保健体育（大修館））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 運動の特性に応じた技能等及び社会生活の健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を高め、各自の能力に応じて、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、思考、判断しながら授業に取り組み、自分の考えや技能を表現できるようにする。	運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、協調等の態度を育て、健康・安全に留意して、生涯を通じて継続的に運動ができるように意欲的に授業に取り組むことができるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 体づくり運動 【知識及び技能】 各自の能力に応じて自己の技能をより効果的に発揮させる。 【思考力、判断力、表現力等】 運動能力テストの各種目のルールを理解し、自己の最高度の能力を発揮するコツを意識させる。 【学びに向かう力、人間性等】 自主的に体ほぐしの運動や体づくり運動、運動能力テスト取り組ませる。	体ほぐしの運動 体づくりの運動 運動能力テスト（スポーツテスト計測）	【知識・技能】 各自の能力に応じて自己の技能をより効果的に発揮している。 【思考・判断・表現】 運動能力テストの各種目のルールを理解し、自己の最高度の能力を発揮するコツを意識して運動をしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自主的に体ほぐしの運動や体づくり運動、運動能力テストに取り組んでいる。	○	○	○	8
	C 球技 【知識及び技能】 アルティメットの楽しさを味わい、パスやスペースに走りこむ力や防御の基本的な技能を身に付け、仲間とゲームを展開させる。 【思考力、判断力、表現力等】 チームや自己のアルティメット上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫させ、自己や仲間の考えを伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 危険予知、危険予測をさせ、安全を確保して、アルティメットに主体的に取り組ませる。	アルティメット	【知識・技能】 アルティメットの楽しさを味わい、パスやスペースに走りこむ力や防御の基本的な技能を身に付け、仲間とゲームを展開している。 【思考・判断・表現】 チームや自己のアルティメット上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫して、自己や仲間の考えを伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 危険予知、危険予測をしながら、安全を確保して、アルティメットに主体的に取り組んでいる。	○	○	○	10
	B 球技 【知識及び技能】 バドミントンの安定したラケット操作やペアと連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができるようにさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ペアや自己のバドミントン上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫させ、自己や仲間の考えを伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 危険予知、危険予測をさせ、安全を確保して、バドミントンに主体的に取り組ませる。	バドミントン	【知識及び技能】 バドミントンの安定したラケット操作やペアと連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができている。 【思考力、判断力、表現力等】 ペアや自己のバドミントン上達の課題を見つけさせ、課題解決の練習を工夫して、自己や仲間の考えを伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】 危険予知、危険予測をしながら、安全を確保して、バドミントンに主体的に取り組んでいる。	○	○	○	12
	H 体育理論 【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解できるように指導する。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し、判断するとともに、他者に伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に意欲的に取り組ませる。	体育理論	【知識】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、自分の言葉で説明できる。 【思考・判断・表現】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し、判断するとともに、他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に意欲的に取り組んでいる	○	○	○	2

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 組～組

教科担当者：（1組：長野泰明）

使用教科書：（新高等保健体育（大修館））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 運動の特性に応じた技能等及び社会生活の健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を高め、各自の能力に応じて、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、思考、判断しながら授業に取り組み、自分の考えや技能を表現できるようにする。	運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、協調等の態度を育て、健康・安全に留意して、生涯を通じて継続的に運動ができるように意欲的に授業に取り組むことができるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	D 球技 【知識及び技能】 卓球の安定したラケット操作やペアと連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができるようにさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ペアや自己の卓球上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫させ、自己や仲間の考えを伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 危険予知、危険予測をさせ、安全を確保して、卓球に主体的に取り組ませる。	卓球	【知識・技能】 卓球の安定したラケット操作やペアと連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができてい る。 【思考・判断・表現】 ペアや自己の卓球上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫して、自己や仲間の考えを伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 危険予知、危険予測をしながら、安全を確保して、卓球に主体的に取り組んでいる	○	○	○	10
	C 球技 【知識及び技能】 パス、ドリブル等の安定したボールと空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入に向けての攻防をさせるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 チームや自己のバスケットボール上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫させ、自己や仲間の考えを伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 危険予知、危険予測をさせ、安全を確保して、バスケットボールに主体的に取り組ませる。	バスケットボール	【知識・技能】 パス、ドリブル等の安定したボールと空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入に向けての攻防ができてい る。 【思考・判断・表現】 チームや自己のバスケットボール上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫して、自己や仲間の考えを伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 危険予知、危険予測をしながら、安全を確保して、バスケットボールに主体的に取り組んでいる。	○	○	○	12
	E 球技 【知識及び技能】 バレーボールで役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 チームや自己のバレーボール上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫させ、自己や仲間の考えを伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 危険予知、危険予測をさせ、安全を確保して、バレーボールに主体的に取り組ませる。	バレーボール	【知識・技能】 バレーボールで役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができてい る。 【思考・判断・表現】 チームや自己のバレーボール上達の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫して、自己や仲間の考えを伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 危険予知、危険予測をしながら、安全を確保して、バレーボールに主体的に取り組んでいる。	○	○	○	12
	H 体育理論 【知識】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるように指導する。 【思考力、判断力、表現力等】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し、判断するとともに、他者に伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に意欲的に取り組ませる。	体育理論	【知識】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、自分の言葉で説明できる。 【思考・判断・表現】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて、思考し、判断するとともに、他者に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に意欲的に取り組んでいる	○	○	○	2

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 組～組

教科担当者：（1組：長野泰明）

使用教科書：（新高等保健体育（大修館））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 運動の特性に応じた技能等及び社会生活の健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を高め、各自の能力に応じて、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、思考、判断しながら授業に取り組み、自分の考えや技能を表現できるようにする。	運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、協調等の態度を育て、健康・安全に留意して、生涯を通じて継続的に運動ができるように意欲的に授業に取り組むことができるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	Ⅱ 陸上競技 【知識及び技能】 持久走で記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、自己に適したペースを維持して走ることができるようにさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の持久走の記録向上の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫させ、自己や仲間の考えを伝えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 危険予知、危険予測をさせ、安全を確保して、持久走に主体的に取り組ませる。	持久走	【知識・技能】 持久走で記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、自己に適したペースを維持して走ることができる。 【思考・判断・表現】 自己や仲間の持久走の記録向上の課題を見つけ、課題解決の練習を工夫して、自己や仲間の考えを伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 危険予知、危険予測をしながら、安全を確保して、持久走に主体的に取り組んでいる	○	○	○	10
							合計 78

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 国語A

教科：国語 科目：国語A 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組

教科担当者：（1組：渡邊）

使用教科書：（新編 現代の国語（大修館書店））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値や我が国の言語文化への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話・聞	書	読					
1 学 期	○ことばの学びに向けて ・評論の読解を通して自分の考えをもつ。	「コミュニケーションは技術だ」茂木健一郎 ・筆者のコミュニケーションに対する考えを読み取る。 ・筆者の主張をふまえて、コミュニケーションに対する意欲をもつ。 <教材> ・教科書 ・ワークシート			○	【知識・技能】 ・筆者の体験とこの論の主張の関係について理解している。 【思考・判断・表現】 ・「コミュニケーション下手」と「コミュニケーションを避けること」の違いを理解している。 ・「スポーツ」と「コミュニケーション」の共通点を読み取っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・筆者の主張をふまえて、自分の体験や意見を関連付けようとしている。	○	○	○	6
	○ことばの使い分け ・場面や目的に応じて適切な言葉を選ぶようになる。	ことばの使い分け ・場面や目的に応じて適切な言葉を選ぶ。 ・敬語の正しい使い方や類義語のニュアンスの違いを理解し、適切に使い分ける。 <教材> ・教科書 ・ワークシート	○			【知識・技能】 ・改まった場面にふさわしい言葉遣いや文末表現の使い分けについて理解している。 ・敬語の使い分け・類義語のニュアンスの違いや和語・漢語・外来語について、理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉の使い分けに興味を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	○ことばの基礎 ・基礎的な国語の語彙を身に付ける。	・漢字の読み書き（漢検7～4級） <教材> ・漢字プリント		○		【知識・技能】 ・漢検7～4級程度の語彙が身に付いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢検7～4級程度の語彙の学習に対して意欲をもっている。	○		○	4
	定期考査						○	○		1
	○わかりやすく説明する ・評論の読解を通して説明のしかたとらえる。	「ナンバーワンか、オンリーワンか」稲垣栄洋 ・接続表現に気を付けて読み、説明のしかたとらえる。 ・問題提起とその答えを意識し、文章全体の構成をつかむ。 <教材> ・教科書 ・ワークシート			○	【知識・技能】 ・接続表現の働きを理解している。 ・実験結果と筆者の主張の関係を把握している。 【思考・判断・表現】 ・問題提起とその答えを理解している。 ・図と本文の関係を理解している。 ・筆者の主張を的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に学習に取り組む、説明のしかたとらえようとしている。	○	○	○	5
2 学 期		ショートスピーチをしよう ・場面や目的に応じて適切な言葉を選ぶ。 ・敬語の正しい使い方や類義語のニュアンスの違いを理解し、適切に使い分ける。	○			【知識・技能】 ・わかりやすさ、適切さに配慮した表現や言葉遣いについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、話す内容を集め、伝えたいことを明確にして、構成や展開を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ショートスピーチすることに意欲をもち、積極的に学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	○ことばの基礎 ・基礎的な国語の語彙を身に付ける。	・漢字の読み書き（漢検7～4級） <教材> ・漢字プリント		○		【知識・技能】 ・漢検7～4級程度の語彙が身に付いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢検7～4級程度の語彙の学習に対して意欲をもっている。	○		○	4
	定期考査						○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 国語A

教科：国語 科目：国語A 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組

教科担当者：（1組：渡邊）

使用教科書：（新編 現代の国語（大修館書店））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値や我が国の言語文化への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
2 学 期	○他者を動かす ・相手の心や気持ちを動かす企画書の書き方を工夫する。 ・さまざまな資料を活用し、聞き手の心を動かす発表のしかたを工夫する。	魅力的な企画書を書こう ・対象者を明確にし、対象者を説得することができる企画書を書く。 ・企画書に必要な要素を知り、見やすく、わかりやすい企画書をまとめる。		○		【知識・技能】 ・書き言葉の特徴や役割をふまえ、目的に応じた表現や言葉遣いを理解している。 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて題材を決め、相手を意識しながら必要な情報を整理して、伝えたいことを明確にしている。 ・「書くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、説明のしかたや表現のしかたを工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・企画書を書く活動に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	○	○	○	5
		プレゼンテーションをしよう ・聞き手の心を動かし、目的を達成するために、構成や発表のしかたを工夫する。 ・様々な資料を活用しながら発表する。		○		【知識・技能】 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確にわかりやすく話したり、効果的な発表資料を作成したりしている。 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いながら、相手の心を動かすことができるよう表現を工夫して発表している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・プレゼンテーションすることに意欲をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	○ことばの基礎 ・基礎的な国語の語彙を身に付ける。	・漢字の読み書き（漢検7～4級） <教材> ・漢字プリント		○		【知識・技能】 ・漢検7～4級程度の語彙が身に付いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢検7～4級程度の語彙の学習に対して意欲をもっている。	○		○	4
	定期考査						○	○		1
	○情報と向き合う ・情報を吟味しながら読む。	「どこもかしこもプラスチック！」 中嶋亮太 ・文章とグラフとの関係に注意しながら、文章を読み取る。 ・筆者の主張とその根拠の関係を吟味しながら読み、自分の意見を持つ。 <教材> ・教科書 ・ワークシート		○		【知識・技能】 ・グラフの種類とその特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ・グラフとの関係に注意しながら論旨を理解し、海洋プラスチックごみ問題について考えをもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・海洋プラスチック汚染について、グラフとの関係に注意しながら論旨を読み取り、自分なりの考えをもとうとしている。	○	○	○	5
		レポートを書こう ・テーマを決め、適切な方法で情報を集める。 ・集めた情報を根拠として、説得力のあるレポートをまとめる。 <教材> ・教科書 ・ワークシート		○		【知識・技能】 ・情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたについて理解している。 ・文書の書き方、引用のルール、参考文献の示し方などを理解している。 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報収集や情報の吟味をしてレポートを書くことに、意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	○ことばの基礎 ・基礎的な国語の語彙を身に付ける。	・漢字の読み書き（漢検7～4級） <教材> ・漢字プリント		○		【知識・技能】 ・漢検7～4級程度の語彙が身に付いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢検7～4級程度の語彙の学習に対して意欲をもっている。	○		○	4
	定期考査						○	○		1

[illegible]

南葛飾 高等学校 令和 7 年度（3 学年用） 教科 外国語 科目 朝鮮語Ⅱ

单位

)

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】 朝鮮語の言語の特色や文化に関心を持ち、朝鮮を正しく見る態度をより確かなものにする。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
朝鮮語の学習を通して、日韓間の言語のなかに現れる類似点を学びつつ、古来からの日韓関係の知識や「語学」としての朝鮮語会話に関する技能を習得する。	朝鮮語の言語の特色や文化、歴史に親しむことを通して、異文化を正しく受け入れられる判断力や「同和」問題にかかる視点から考察力を身につける。	朝鮮語の言語の特色や文化に関心を持ち、朝鮮を正しく見る態度をより確かなものにする。

[illegible]

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭科 科目 家庭一般

教科： 家庭科 科目： 家庭一般 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組

教科担当者： （1組：吉本未来）

使用教科書： （ 未来へつなぐ 家庭基礎365 （教育図書） ）

教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】 生活を主体的に営むために実践・体験的な学習を通して必要な基礎的な理解および技術を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生活の中から課題を設定し、解決策を根拠に基づいて表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し地域社会に参画しようとし、自分や地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭一般 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
衣食住、福祉、生活経済設計などに関する基礎的な知識や技術を実践的・体験的な学習を通して総合的に身につけるようにする。	生活の充実を図るための課題を見だし、解決を目指して資料等の根拠を基に思考を深め適切に判断し工夫する能力を養う。	将来を見通して自分の生活や地域・社会生活の充実及び向上に関心をもち、様々な人と協働しながら主体的に取り組む実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 衣生活と健康 【知識及び技能】 ライフステージや目的に応じた衣服について理解する。 被服管理について理解し管理できる技術を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の衣生活について、人と比較して意見を言う事ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 被服製作実習に意欲的に取り組む。 着用の目的に応じて健康的な衣服選択と着装をしようとする。	衣服の機能とTPO 衣服を選ぶ 衣服の手入れと保管 被服製作実習 ＜教材＞ ・教科書 ・被服製作課題 ・裁縫道具 ・ミシン ・DVD・VTR資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 衣服の機能やライフステージや目的に応じた衣服、衣服の健康への影響などを理解している。 衣服管理を適切に行う技能を習得している。 【思考・判断・表現】 場面に応じた着装の工夫を考えている。 衣服の入手前に、手入れや保管方法を考える事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自身の衣生活を分析し、衣服に関心をもとうとしている。 衣服の手入れに実際に挑戦しようとしている。	○	○	○	22
	B 共生社会と福祉 【知識及び技能】 共生社会の重要性を知り、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインなどの理念を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者や障がいのある人の立場に立ってさまざまな問題点について自分の意見をいう事ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者や障害のある人など多様な人々とともに支え合って生きようとする姿勢がある。	ノーマライゼーション ユニバーサルデザイン 自助・共助・公助 社会保障制度 ＜教材＞ ・教科書 ・DVD・VTR資料 ・UDを採用している商品 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 高齢者や障がいのある人など多様な人々が共に支え合って生きることの意義を理解している。 【思考・判断・表現】 高齢者や障がいのある人の立場に立ってさまざまな問題点について自分の意見をいう事ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 さまざまな立場の人はや、自分とは異なる価値観の人に対しても理解しようとしている。	○	○	○	9

年間授業計画

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭科 科目 家庭一般

教科： 家庭科 科目： 家庭一般 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組

教科担当者：（1 組：吉本未来）

使用教科書：（ 未来へつなぐ 家庭基礎 3 6 5 （教育図書） ）

教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】 生活を主体的に営むために実践・体験的な学習を通して必要な基礎的な理解および技術を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生活の中から課題を設定し、解決策を根拠に基づいて表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し地域社会に参画しようとし、自分や地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭一般 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
衣食住、福祉、生活経済設計などに関する基礎的な知識や技術を実践的・体験的な学習を通して総合的に身につけるようにする。	生活の充実を図るための課題を見だし、解決を目指して資料等の根拠を基に思考を深め適切に判断し工夫する能力を養う。	将来を見通して自分の生活や地域・社会生活の充実及び向上に関心を持ち、様々な人と協働しながら主体的に取り組む実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学期	C 食生活と健康 【知識及び技能】 食事の大切さを理解し、健康安全を考えた献立作成や生活に必要な調理技術を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 資料等の根拠をもとに考えをまとめたり、献立作成や調理手順等を工夫することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 現在・将来の自分や家族にとっての食生活の課題を自分ごととして捉え、食生活の充実向上を図るために実践しようとする。	食事の大切さと役割 年齢ごとの食事の特徴 五大栄養素 食品の選択 食中毒と安全 献立作成 調理実習 <教材> ・教科書 ・DVD・VTR資料 ・そのまなま料理カード ・一人1台端末の活用 ・調理器具等 ・食材 他	【知識・技能】 食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。 栄養素の特徴とそれを多く含む食品について理解している。 食中毒や食物アレルギー・宗教や食志向について理解し健康・安全を考えた献立作成や調理をすることが出来る。 【思考・判断・表現】 自身の食生活を分析し、人と比較して意見を言う事ができる。 食事摂取基準等を目安に献立を作成することが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 栄養素や食品の知識を生かして自身や家族の日々の食生活を改善しようとしている。	○	○	○	29
3 学期	D 生活における経済の計画 【知識及び技能】 生涯を見通した経済計画について必要な情報の収集や整理が適切にできる。 【思考力、判断力、表現力等】 家計管理について具体的に考えたり、シュミレーションすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 将来にわたるリスクを想定して貯蓄や金融商品や保険の活用などに関心をもっている	収入と支出 給与明細 保険 金融商品 フローとストック <教材> ・教科書 ・DVD・VTR資料 ・金融/保険商品パンフレット等 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 家計における収入と支出について理解している。 必要な情報の収集や整理ができる 【思考・判断・表現】 将来のリスクや必要になる費用や資産形成について考えたりシュミレーションすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を見通した家計の管理や計画、経済的なリスクについて、不測の事態を想定して対応を考えようとしている。	○	○	○	18
							合計
							78

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 日本語 科目 日本語

教科 科： 日本語 科目： 日本語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組

教科担当者：（1組：神保 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（『できる日本語初 初級・中級』『漢字たまご 初級・初中級』ほか ）

教科 日本語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく身につける

【思考力、判断力、表現力等】理解した日本語を、複数の言語を用いて思考・判断し、日本語で伝え合う力を高める。

【学びに向かう力、人間性等】日本語を用いて、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 日本語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に運用できる技能を身に付ける。	日常的な話題や社会的な話題について、日本語で理解したり、適切に表現したり、伝え合ったりすることができる。	日本語を用いて、主体的、自立的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。また、多様な言語・文化的背景をもつ仲間との協働的対話を通して、視野を広げる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	「人とかかわり」を考える中で、自己と他者を理解する姿勢や何かを受け取るときの対応・話し方などを学ぶ。 【知識及び技能】 「～してもら／～してあげる」など他者とかかわりをもつために必要な会話の文法や語彙を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 これまでの人とかかわりを振り返りながら、より良い関わり方、話し方について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 関わり方、話し方を教員や生徒と話し合う中で、より良い方法について考え、自分の言葉で表現しようとしている。	・自己理解と他者理解 ・「～してもら／～してあげる」 ・受け身 ・コミュニケーションに大切なこと	【知識・技能】 「～してもら／～してあげる」など他者とかかわりをもつために必要な会話の文法や語彙を理解し、表現できたか。 【思考・判断・表現】 これまでの人とかかわりを振り返りながら、より良い関わり方、話し方について考察できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①主体的・自立的に学習を進めたか。 ②他者と協力できたか。 （課題提出および授業内発表による評価）	○	○	○	14
	「ガン告知」に関する問題を導入にして、社会保険制度や病気になった時の表現・語彙などについて学ぶ。 【知識及び技能】 病気になったときに必要な手続きや現在の自分の状況を伝えるための表現・語彙を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 「がん告知」について、自分の意見や考えを日本語で表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 「がん告知」の問題について、他者の意見も尊重しながら、自身がどのように対応・行動するか、考えようとしている。	・ガン告知の問題について討論する ・「～べきだ」「～にとって」 ・病気になったときに必要な表現 ・健康保健など社会保障制度を知る	【知識・技能】 病気になったときに必要な手続きや現在の自分の状況を伝えるための表現・語彙を学べたか。 【思考・判断・表現】 「がん告知」について、自分の意見や考えを日本語で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①主体的・自立的に学習を進めたか。 ②他者と協力できたか。 （課題提出および授業内発表による評価）	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 日本語 科目 日本語

教 科： 日本語 科 目： 日本語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組

教科担当者：（1組：神保 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（『できる日本語初 初級・中級』『漢字たまご 初級・初中級』ほか ）

教科 日本語 の目標：

【知 識 及 び 技 能】聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく身につける

【思考力、判断力、表現力等】理解した日本語を、複数の言語を用いて思考・判断し、日本語で伝え合う力を高める。

【学びに向かう力、人間性等】日本語を用いて、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 日本語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に運用できる技能を身に付ける。	日常的な話題や社会的な話題について、日本語で理解したり、適切に表現したり、伝え合ったりすることができる。	日本語を用いて、主体的、自立的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。また、多様な言語・文化的背景をもつ仲間との協働的対話を通して、視野を広げる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	「日本の教育制度・高等教育」について学びながら、進路学習をする上で必要な表現や語彙を学ぶ。また、親と子の立場から教育について考える。 【知識及び技能】 進学に関する仕組みや面接でのやり取りを学ぶ中で、学問分野における表現や語彙を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 親と子それぞれの立場から教育への関心や大切さについて考察し、自分の考えを表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 日本の教育制度について理解するとともに、親の立場も尊重した上で、自身が学校教育にどう向き合うのか考えようとしている。	・大学や教育制度の違いについて話す ・教育について親と子の立場から考える ・「～させる」「～してほしい」 ・学問分野に関する語彙	【知識・技能】 進学に関する仕組みや面接でのやり取りを学ぶ中で、学問分野における表現や語彙を学んだか。 【思考・判断・表現】 親と子それぞれの立場から教育への関心や大切さについて考察し、自分の考えを表現できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①主体的・自立的に学習を進めたか。 ②他者と協力できたか。 （課題提出および授業内発表による評価）	○	○	○	16
	日本における職業の紹介を踏まえながら、職業観・勤労観の育成と自身の日本におけるキャリアについて考える。 【知識及び技能】 職業に関する語彙を学ぶとともに、仕事について調べたり、インタビューする上で必要な表現を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 「働く理由」や「やりがい」について考察し、自身の考えを日本語で表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 個人およびグループ、他者へのインタビューを通して、自身のキャリアについて考えようとしている。	・その仕事を選んだ理由、いい所、大変なところ、気を付けていることなど聞く （NHK高校講座等の動画も活用） ・職業に関する語彙 ・生涯賃金について	【知識・技能】 職業に関する語彙を学ぶとともに、仕事について調べたり、インタビューする上で必要な表現を学んだか。 【思考・判断・表現】 「働く理由」や「やりがい」について考察し、自身の考えを日本語で表現できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①主体的・自立的に学習を進めたか。 ②他者と協力できたか。 （課題提出および授業内発表による評価）	○	○	○	16
	定期考査						1

南葛飾 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 日本語 科目 日本語

教科 科：日本語 科目 科：日本語 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組

教科担当者：（1組：神保）（組：）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（『できる日本語初 初級・中級』『漢字たまご 初級・初中級』ほか）

教科 日本語 の目標：

- 【知識及び技能】聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく身につける
- 【思考力、判断力、表現力等】理解した日本語を、複数の言語を用いて思考・判断し、日本語で伝え合う力を高める。
- 【学びに向かう力、人間性等】日本語を用いて、主体的・自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 日本語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に運用できる技能を身に付ける。	日常的な話題や社会的な話題について、日本語で理解したり、適切に表現したり、伝え合ったりすることができる。	日本語を用いて、主体的、自立的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。また、多様な言語・文化的背景をもつ仲間との協働的対話を通して、視野を広げる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
3 学 期	実現したキャリアについて、これまでに調べたことを基に、ポスターを作成し発表する。 【知識及び技能】 これまでに調べた内容をまとめて発表する技能、ポスターにまとめる技能を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 これまでに考察した自分の興味関心を見定め、ポスターのテーマを決めること、テーマを掘り下げてキャッチフレーズを作成すること、内容をまとめて発表し、ポスターを書くことを通して、思考力・判断力・表現力を養う。 【学びに向かう、人間性等】 長時間継続して自主的に取り組むプロジェクトを通じて、計画性、自立性、自己管理能力などを養う。	・テーマ決め ・インタビューの質問作成 ・インタビューの実施 ・発表用パワーポイント作成 ・レポート作成	【知識・技能】 これまでに調べた内容をまとめて発表する技能、ポスターにまとめる技能を学んだか。 【思考・判断・表現】 これまでに考察した自分の興味関心を見定め、ポスターのテーマを決めたり、テーマを掘り下げてキャッチフレーズを作成できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①主体的・自立的に学習を進めたか。 ②他者と協力できたか。 (課題提出および授業内発表による評価)				15
	定期考査			○	○		1
							合計 78

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A ガイダンス 【知識及び技能】 趣旨・活動計画を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 情報の適正な収集ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 活動に、主体的、創造的に 取り組む。	・ 総合的な探求の時間の 趣旨理解及び活動計画の理解 ・ 自己の課題やテーマに沿った 研究課題について決定する 【教材等】 ・ 書籍 ・ 一人1台端末の活用	【知識・技能】 ワークシートなどの学習成果等 【思考・判断・表現】 レポート研究成果の発表等 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や取り組みの姿勢、テーマを 意識した自己改革に対する興味・関心	○	○	○	4
	B 研究課題探し 【思考力、判断力、表現力等】 情報を適正に収集し問題を 解決しようする。 【学びに向かう力、人間性等】 活動に、主体的、創造的に 取り組む。				○	○	13
2 学 期	C 個人探究 【知識及び技能】 他教科での知識や技能を 横断的・総合的に関連づける ことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 情報を適切に収集し問題を 客観性をもって判断し推敲 することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 活動に、主体的、創造的に 取り組む。	・ 自己の課題やテーマに沿った 研究課題について探究する 【教材等】 ・ 書籍 ・ 一人1台端末の活用	【知識・技能】 ワークシートなどの学習成果等 【思考・判断・表現】 レポート研究成果の発表等 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や取り組みの姿勢、テーマを 意識した自己改革に対する興味・関心	○	○	○	14
3 学 期	D 発表・研究のまとめ 【思考力、判断力、表現力等】 情報を適切に収集し問題を 客観性をもって判断し表現 することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 活動に、主体的、創造的に 取り組む。	・ 自己の課題やテーマに沿った 研究課題について発表する 【教材等】 ・ 書籍 ・ 一人1台端末の活用	【思考・判断・表現】 レポート研究成果の発表等 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や取り組みの姿勢、テーマを 意識した自己改革に対する興味・関心		○	○	8
							合計
							39